

〔図説〕 松本歯学 28 : 87~89, 2002

key words : *Limited cone beam CT — periodontitis — alveolar bone defects*

## 歯科用小照射野 X 線 CT (3 DX) 画像診断： 歯周病による骨吸収像の観察に有用であった 1 例

内田 啓一, 新井 嘉則, 塩島 勝, 永山 哲聖

松本歯科大学 歯科放射線学講座

音琴 淳一, 太田 紀雄

松本歯科大学 歯科保存学第一講座

Diagnostic Imaging by Limited Cone Beam CT (3 DX) :

A Case in which the Image of Bone Resorption by Periodontitis was Observed Effectively.

KEIICHI UCHIDA, YOSHINORI ARAI, MASARU SHIOJIMA and TESSEI NAGAYAMA

*Department of Oral Radiology, Matsumoto Dental University School of Dentistry*

JUN-ICH OTOGOTO and NORIO OTA

*Department of Periodontology, Matsumoto Dental University School of Dentistry*

歯周病における歯槽骨吸収は主要な臨床症状の一つであり、その状態を診断するには X 線写真が重要な位置を占めている。二等分法 X 線写真、歯頸部投影法 X 線写真、咬翼法 X 線写真、パノラマ X 線写真などが診断に利用されているが、いずれも二次元画像による診断であり歯槽骨の吸収の状態とくに壁性骨欠損を診断することが困難である。

今回、歯科用小照射野 X 線 CT (株モリタ製作所、京都、以下 3 DX) 画像診断において歯周病による骨吸収像の観察に有用であった 1 例を経験したのでその写真を供覧する。

患者は、52 歳男性であり、2000 年 11 月 21 日右側下顎第二大臼歯の自発痛と動揺を主訴に本学歯周病科を受診し、その後、歯周処置を行っている。2002 年 6 月 4 日右側下顎第二大臼歯部の骨吸収の状態を精査するために画像検査を行った。

断層方式パノラマ X 線写真においては、右側下顎第一大臼歯部において根分岐部病変と遠心側



写真 1 : 断層方式パノラマ X 線写真においては、右側下顎第一大臼歯部の根分岐部病変、遠心側歯槽骨の水平的骨吸収を認める。第二大臼歯部では近心根の根尖病巣と歯根膜腔の拡大を認め、歯槽骨の水平的吸収を認める。

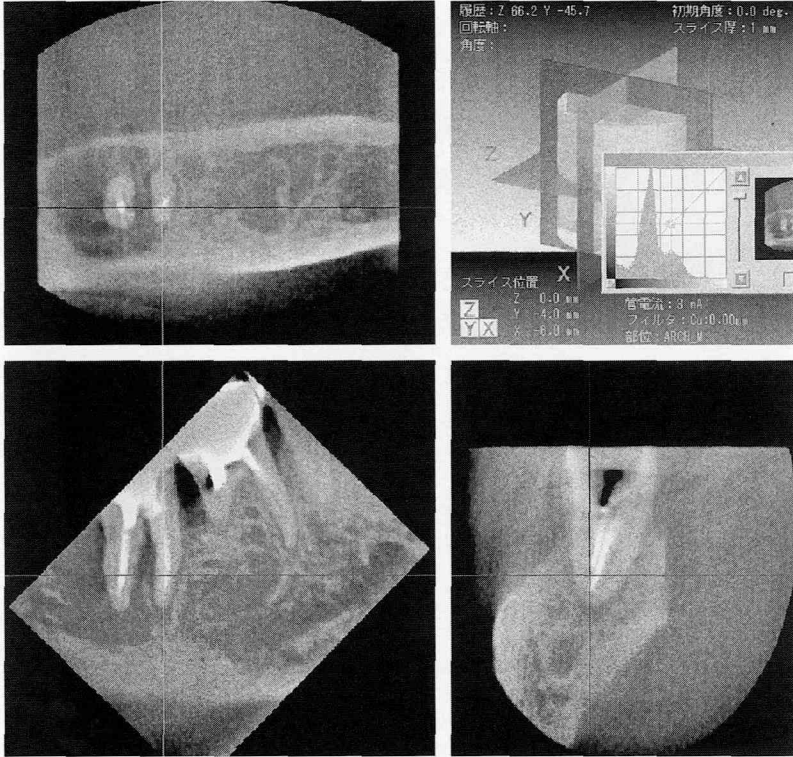


写真 2

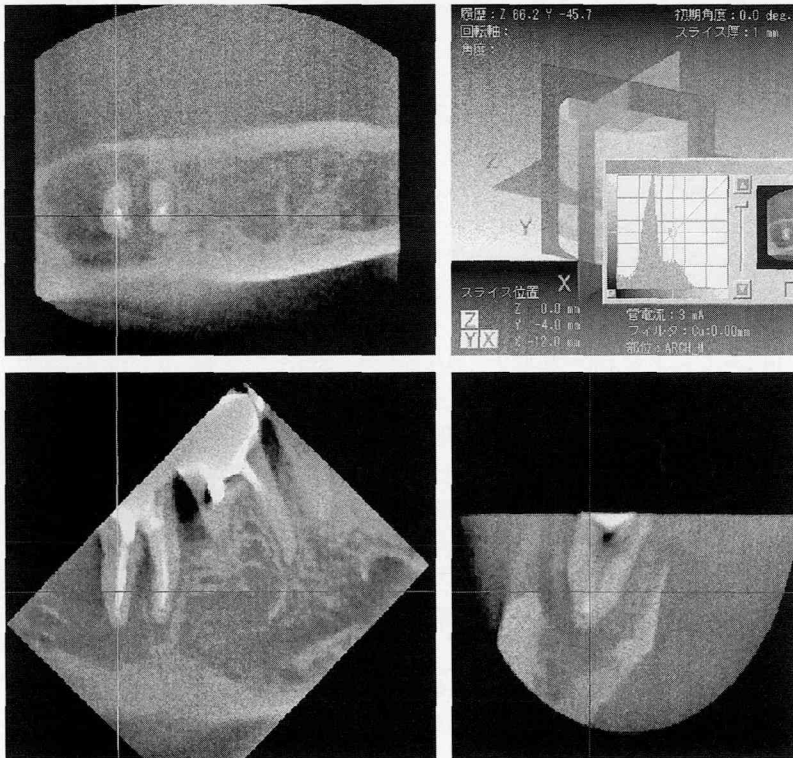


写真 3

写真 2, 3 : 3 DX 画像では右側下顎第一大臼歯部の根尖周囲の著しい骨崩壊像を認める。第二大臼歯部では近心根の歯槽骨が一部残存しているが、遠心根周囲骨は完全に崩壊、吸収されているのが認められる。

の歯槽骨の水平的骨吸収を認めた(写真1)。第二大白歯部においては近心根の根尖病巣と歯根膜腔の拡大を認め、歯槽骨の水平的吸収を認めた。3DX画像では右側下顎第一大臼歯部の根尖周囲の著しい骨崩壊像を認めた。第二大白歯部においては近心根の歯槽骨が一部残存しているが、遠心根周囲の骨は完全に崩壊し吸収されているのが認められた。また、一部においては下顎管壁の破

壊像を認めた(写真2, 3)。

歯周病における骨の吸収像、破壊像とくに骨壁性骨欠損をX線画像として捉えることは従来の画像検査法では困難であった。今回の3DX検査においては歯周病による骨吸収像、歯槽骨の状態を明瞭に観察することができ、今後の処置方針の決定に役立つことができた。